

## 118周年記念式典校長式辞

本日ここに、PTA副会長中村みゆき様、同窓会香蘭会会長田中久也様をはじめ多数のご来賓の方々をお迎えし、創立118周年記念式典を挙行し、引き続き、高校26回生八坂泰生(やさか やすお)様を講師として、記念講演会を開催できますことは大きな慶びであります。

本校は、明治31年6月6日福岡市立福岡高等女学校として開校して以来、明治41年4月1日福岡県立福岡高等女学校、昭和24年4月1日福岡県立福岡中央高等学校と改称し今年で創立118年目を迎えることになりました。この間、約3万4千人の先輩方が本校から巣立ち、今日に到るまで各界で活躍されてきました。

開校当初は、現在の水鏡天満宮(アクロス福岡前)のところにあった老朽化した市役所2階での学校生活ということで1階の市役所の方々に迷惑をかけないようにしていたそうです。施設設備も整っていない中で不便な学校生活であったようです。

その後現在の新天町付近、因幡町へ移転し、さらに現在の地平尾に移転という歴史を経て現在に至っています。県立高等女学校時代は女子教育のメッカとして、県下全域はもちろんのこと九州各地から優秀な人材が集まってきたそうです。

第2次世界大戦後の新学制のもとで、男女共学の本校が誕生したわけです。

その後は、福岡市中央区にある唯一の県立高等学校として、校訓「誠意・仁愛・努力」のもとで、校是「文化の香り高い校風 品格に富む生徒の育成」に則り、礼節を重んじ、落ち着いた雰囲気、「夢と志」を育む高校としてその伝統を引き継いできました。

本日は、現在の校舎ができたところからの10年毎の大きな節目に着目しながら、本校の歴史を振り返ってみたいと思います。

現在の校舎は田中会長が香蘭会長に就任された創立80周年の年昭和53年(1978年)の記念事業として校舎改築が決定され、昭和59年(1984年)に落成したものです。

その後、記念事業の積み残しとして弓道場・プールのある第2体育館が創立90周年の年昭和63年(1988年)に完成しました。

また、この年は創立90周年記念事業の一つとして、前庭の植栽工事、前庭および正門入り口文様タイル貼り工事が、同窓会香蘭会の寄付により、行われました。皆さんが毎日通っている前庭のタイルの文様は、力強い大河の流れ、神秘的な銀河、自由奔放な雲を表し、本校が発展することを願って造られたものです。豪華な白地のグラニット化粧タイルを使用しているため、損傷をさけるため、車の乗り入れは原則として禁止しているところです。これからも大切にしていきたいものです。

この創立90周年を機にスクールカラーを紺色に定めたそうです。旧制高女のスカートが紺であったため、新制高等学校に変わった直後も紺色が使用されていましたが、明文化されていなかったため、不明確となり、生徒会で幾度となくスクールカラーを決めようと検討され、男子にもなじめる色ということで紺に決定されたそうです。ぜひ覚えておいてほしいことのひとつです。

創立100周年ではこの和真恵学堂、図書館、食堂、百周年記念碑の建設、記念誌の刊行、応援歌制作等が行われました。また、この年アクロス福岡シンフォニーホールでの記念音楽会が行われ、3年に1度の九州交響楽団フルオーケストラによる演奏会が始まったわけです。今年は118周年記念音楽会と銘打って7月6日に行われますが、この音楽会にも、このような歴史があるわけです。高校3年間に1度は本物のフルオーケストラの音楽に触れさせたいとの教育振興会の方々の願いから始まったと聞いています。大変意義のある行事です。

創立110周年事業では本校の歴史が一目でわかる歴史資料室が完成しました。すべてを紹介しているわけではありませんが、主なものだけでもこのように節目節目で本校のソフト面、ハード面の大きな事業が行われてきたわけです。そのおかげでこのようなすばらしい教育環境の下で学習できることに感謝しなければなりません。そして、2年後には創立120周年を控えているわけです。金井前校長先生のご尽力で、記念事業について概要

が決定されていますので、今後具現化していくため、委員会を発足し進めているところです。現在の在校生の活躍が120周年に華を添えることとなります。

次に、長い歴史の中には、本校で行われていたことの中で一旦はなくなっていたことが再び復活したものや、形を変えて行われているものがいくつかあります。

その中でも校門での一礼は皆さんがよく知っていることだと思いますが、先ほどの校舎改築に伴い一時校門が閉鎖されたことにより消えてしまっていたものが復活しました。「けじめがつく」「礼儀正しいことだから」「愛校心から」などの理由で行われていますが、大切にしていきたい伝統のひとつです。

1年生の自立と協働を学ぶ体験活動における遠歩は、昭和6年本校初めての試みとして全校生徒によって行われた久留米早着遠足を復活させたものです。朝5時半までに学校に集合し、キャラメル一箱ずつもらって久留米まで十里あまり(約40キロメートル)を歩き、薄暮にやっと到着し、夜8時ごろ電車で帰福したという記録があります。現在はグローバルアリーナから玄海少年自然の家までの往復を「30キロ遠歩」と名づけて実施しています。完歩したときの充実感はなんとも言えませんね。

幕末の女流歌人である野村望東尼は福岡の人で、晩年は現在の平尾山荘公園の場所で幾多の勤王の志士を助け、国事に奔走した女傑で有名でした。その望東尼は本校生徒の鑑として歴代校長の訓育方針演説にしばしば引用され、毎年10月6日に平尾山荘に参拝していたそうです。このことにちなんで平尾山荘公園の清掃が始まったそうです。肖像画は歴史資料室に掲げてあります

いろいろと述べてきましたが、現在行われている事は歴史的に見ると大変意義のある事であることが理解できると思います。大切なものは一度消えても復活して行われています。「不易と流行」という言葉がありますが、「流行」を追うばかりでなく、学校教育にとって「不易」なものも大切にしていきたいものです

この「不易」なものというのは皆さんの道徳的な部分や精神的な部分を支えるものではないでしょうか。

私は、福岡中央生にはチャレンジ精神を持ち、世界に視野を広げ、福岡県が目指す「ふくおか未来人材～国際的な視野を持って、地域で活躍する青少年～」として主体的に行動できるような人間になってほしいと期待しています。

結びに、118周年に当たり、改めてこれまでの本校の歴史に思いを致すとともに、これまで以上に生徒や保護者、卒業生、県民の期待に応えられる教育を推進してまいります。本日御臨席の皆様方には、今後とも本校の教育活動に対して、御理解と御支援を賜りますことをお願い申し上げますとともに、皆様の御多幸を祈念申し上げます、式辞といたします。